



佐志小学校 教育相談通信 2020・12・1

「花をみて美しいと感じるあなたのところが美しい」

とうとう今年も師走の月となりました。コロナで始まってコロナで終わる。保護者の皆様にとっても落ち着かない日々であったと思います。一年の締めくくりとしてお互い親子で感謝できることなど振り返るのもいいですね。

対象をみて「美しい」と評価するにはその人の中に美しいと思える基準つまり“ものさし”が必要です。例えば、仏像を見たとき美しいと感動する人がいたとします。ある人はその曲線や彫の技術を美しいと評価したり、ある人は仏像に付いた汚れや苔をみて月日の経過を美しいと評価したり、ある人はその仏像が置かれている景色ごと切り取って美しいと評価したりします。しかし、興味がなくところを動かされない人もいます。仏像を美しいと思わない人がダメだと言っているのではなく、対象を評価するにはそれを測るこのころの“ものさし”が必要だということです。

このメカニズムは子育て中の親子関係によくみられる現象です。親は自身の価値基準に合わせて子どもを評価します。つまり親が持っている“ものさし”でしか自分の子进行评估できません。「この子は本当に人見知りだ」と評価する親は、親自身に「人見知り」という特性が隠れていたり、あるいは過去に「人見知り」という特性を克服した親が子どもを「人見知り」と評価し悩みます。

子どもさんにいい方向に変わって欲しいと願う故のしつけや叱りや小言ですが、結果「自分は人見知り」「何をしても評価されない」「自分は悪い子」など悪い自己評価という“ものさし”を子どもに過剰に与えてしまいます。でも、しつけを放棄することはできないし・・・。

ではどうしたらいいのでしょうか？子育てうまくいかないと感じるときは、子どものところの中に『いい“ものさし”づくり』をする作戦に切り替えます。今の子どもを否定する叱り方ではなく、明日の、未来の子どもに期待する励ます姿勢で注意しましょう。つまり、今すぐの変化を子どもに強要するのではなく、変化する目標を伝え続けます。返事をさせるなど深追いする必要はありません。そして、少しでも出来たとき、いやいやでも出来たときも褒め、『明日は頑張れる』と励まし期待し続けることです。必ず周りから受けとった“ものさし”に従って行動できる子になっていきます。

子育ては悩み多いものですが子育て期間は家族の青春期です。見方を変えるだけで気づいていない多くの幸せを受け取ることができます。行き詰ったときこそ芸人のペコパのように今を無理にでも肯定し、ユーモアで子のいいところを見つけると子育て楽になります。

今年一年お世話になりました。また、来年も相談室でお待ちしています。(文：時川ちづる)

スクールカウンセラー来校予定日

12月8日(火) 終日

1月12日(火) 終日

2月22日(月) 終日

子育ての悩みや相談などがありましたら、各担任、教育相談担当(山本)または養護教諭(小宮)までお気軽に、遠慮されずに連絡をください。

☆連絡先 佐志小学校(74-3445)

*1回の相談時間は、約1時間

*相談料は不要です。

